

「発達障害児の増加 周産期医療に一因」産科医・久保田さん講演

[更新日時]2015年06月12日

佐賀市の子ども育成に関わる職員向けの研修会が1日、市保健福祉会館であり、同市出身で福岡市の久保田産婦人科麻酔科医院院長の久保田史郎さん(70)が、発達障害と周産期医療について講演した＝写真。



久保田さんは、出生直後の赤ちゃんを母親に抱かせると低体温症や低血糖症を招くとして、温かい保育器に入れて砂糖水を飲ませるケアを提唱している。低血糖症が持続すると脳機能に障害をもたらす、発達障害の一因になると説明し「発達障害児の増加は、周産期医療の在り方と深く関わっている」と強調した。

同医院で生まれた新生児が、出生後の体重減少が少なく増加も早いデータも示し、「子どもの発達には分娩(ぶんべん)施設間で差がある」と主張。子育て支援担当者と産科医との情報共有の重要性を訴えた。

＝2015/06/08 付 西日本新聞朝刊＝